

令和3年度

# 事業計画書

社会福祉法人 報恩積善会  
養護老人ホーム 報恩積善会

## 令和3年度 事業計画書

養護老人ホームを取り巻く環境は、各市町村からの措置決定をなされず、入所が決定しても困難ケースや他施設では受け入れが難しい方が入所されてきます。

養護老人ホームの責務であります「福祉の最後の砦」として今後も柔軟に役割を担ってまいります。

報恩積善会としても養護老人ホーム、一般型特定施設入所者生活介護として、一層のサービスの質の向上に努めて参ります。「初心にかえる」を念頭に一つ一つゆっくりと個別のペースに合わせて行います。職員全員が意見を言える環境を整え、前向きな意見は積極的に取り入れていきます。

各職種がそれぞれ、プロ意識を持ちながら入所者の支援をさせていただきます。

各市町村にも定期的に訪問し顔の見える関係づくりをしています。引き続き、何かあれば報恩積善会にと声をかけてもらえるように継続して情報発信して参ります。

近隣の他施設とも連携をとり、お互いが向上できるよう情報交換、人事交流を実施していきます。

職員の確保と定着にも力を入れていきます。令和2年度は職員の入れ替わりもあり、施設内の雰囲気に変化がありました。年配の方、若い方、障がいがある方、子育て中の方、外国人の方、どんな方でも柔軟に働くことができる職場を整えていきます。

地域の皆様との関りも、会食・配食サービス、ほほえみカフェ（認知症カフェ）等たくさん取り組みを職員と共に取り組み、つしまみんな食堂とも連携し地域の方がいつでも立ち寄れる拠点施設をつくっていきます。

報恩積善会で最期まで安心して過ごせる場所となれるように職員一同ワンチームで切磋琢磨してまいります。

施設長 田淵 由春

# 法人理念『和』

手を取りあい誰ひとりこぼれることのない大きな輪をつくる大切さのことです。  
私たちは地域の一員として互いの手を携えて、誰もが和やかに生活できる社会の実現を目指します。

## 《施設運営方針》

### ○地域の中の拠点施設となるべき開かれた施設を目指す

地域の中の福祉拠点として、地域の人たちにも開放し地域福祉の向上を目指します。

### ○人生の最終コーナーを廻っている人たちのよき伴走者であれ 「してあげる介護」から「寄り添う介護」へ

小さいひとつひとつのことに他人を思いやる優しい心を込めて関わること。

## 《伴走者の心得》

### ○利用者の尊厳と尊重

丁寧な対応と同時に、相手を尊重し大切にすることをもちます。

### ○洞察力

高齢者の「現在」だけを見るのではなく、私たちと同じ澁刺とした「過去」があったことを認識し、相手の心の奥にある真の思いを察する努力をします。

### ○自分を良く知ること

自分の関わり方、介護の仕方を振り返る謙虚さをもちます。

### ○介護は相互の人間関係

入所者から教えられ、学びながら仕事を続けていることを認識します。

### ○人生の総仕上げの支援

入所者が人生の最期を私たちにゆだねていることに感謝する心をもちます。

## 《行動指針》

- ①私たちは、社会の一員であることを自覚し地域に貢献する取組を行います
- ②私たちは、入所者と共に QOL の向上を目指します
- ③私たちは、常に相手に感謝の言葉を伝えます。
- ④私たちは、互いを尊重し合いチームワークを大切にします
- ⑤私たちは、目標をもって仕事にチャレンジします
- ⑥私たちは、向上心をもち常に成長し続けます

【運営ビジョン】 「自分たちが入所したい施設を創る」

【施設目標】 ①入所者優先 ②初心にかえる ③サービスの質をあげる

【職員行動基準】

職員は行動指針と共に行動基準に沿った考えのもと、目標達成に向けて職務を行います。

1. 根拠ある安全性 ⇒ 2. 謙虚さ ⇒ 3. 積極性 ⇒ 4. 効率性 ⇒ 5. 個性

各部署目標と行動計画

【介護】

「入所者一人一人に耳を傾ける」

○業務の多忙さを言い訳にせず、目線を合わせ相手の気持ちに寄り添う。

「技術や知識を向上させる」

○自分自身の仕事に対する姿勢を見つめ直しスキルアップに努める。

「報・連・相を確実に行う」

○職員間のコミュニケーションがとりやすい環境をつくる。

【看護】

「入所者との信頼関係の構築」

○入所者一人ひとりの思いを汲み取った会話を心掛ける。

○その方の理解度に合わせた解りやすく丁寧なコミュニケーションを図る。

○入所者の意向が聞き手に伝わるよう、必要時にはアドボケーター（代弁者）となる。

「異常の早期発見」

○的確な観察力・判断力を養い、臨機応変な対応を行う。

○主治医・多職種との連携の強化を図る。

【調理】

「食事で入所者の心身の健康を支える」

○嗜好調査や会話から入居者の希望を聞き、献立に反映する。

○季節感のある献立、おやつを提供。食事を楽しんでもらえるように努める。

○栄養指導を実施する（年3回）

○おやつ作りなどを一緒にするなどして、ふれあう機会を持つようにする。

○バイキングを取りやすくできるように検討する。

### 「食品ロスの減少に努める」

- 残菜の多い食品は、調理法、提供方法を工夫する。
- 食品の発注量を定期的に見直す（1回／4月）
- 詳しい嗜好調査をする（入所者の個人の嗜好をまとめ表にする）
- 献立の見直し（1回／4月）

### 【事務所】

- ①「入所率 100%」を目指す（入所へつなげる体制、情報提供）
  - 施設見学や問い合わせ後も電話又はメールにてフォローを行う。
  - 地域包括支援センターへ毎月 20 日頃に待機状況・空き状況について連絡をし、情報共有と関係づくりに努める。
  - 市内の養護老人ホームの連携を深め、情報共有を行い施設間の移動等新たな入所の窓口を創ります。またネットワーク連絡会（仮）を創りフォロー体制を整備します。
- ②「短期入所自主事業の稼働率 20%」（73 日／365 日 R2 年度 90 日／365（24.6%））
  - 津島学区及び伊島学区の民生委員との連携を深める為、出前講座やケア会議等に参加し交流を図ると共に回覧板へチラシを入れるなど広報活動を行う。
  - 地域包括支援センターへ待機状況・空き状況と同様に定期的な連絡を行います。
  - 公益的な取り組みとして、内外への広報と情報共有を行います。
- ③より良い接遇を
  - 誰に対しても「ありがとう」の言葉を伝えます
  - 来客時は立って丁寧な対応を心掛け実践します
  - 「おはようございます」、「おつかれさまでした」1 トーン高く挨拶をします
  - できないことを考えるより、できることから実行します

### 【調査研修関係】

- 1 会議及び研修会へ積極的に参加し、職員の資質と見識を高め共有し入所者ケアの向上に努める。また自主的な外部研修参加に対しては、各種助成を行い職員のスキル向上を支援する。参加に際してはオンラインも活用し施設内外、他県との交流ができるように支援を行う。
- 2 福祉施設研修大会においては、他施設の職員と交流を図り、現場における実践研究発表を通じて学び、積極的に取り入れ実践しサービスの質の向上を行う。また日々の取り組みを研修大会にて発表を行う。
- 3 参考図書は積極的に購入し、福祉に対する認識を養い自己の研鑽に励む。なお、参考

図書は事務所カウンターの所定場所にて自由に閲覧できるようにする。

- 4 施設内での定期的な会議を実施し、報告・連絡・相談を密にすると共に、会議は学習の場として位置付け、職員の資質の向上に努める。

①事業計画発表会

新年度の事業計画策定に当たり、職員参加のもと意見を集約し新しい年度に向けての共有を行う会議とする。

②職場内研修

年間スケジュールのもと、職員のスキルアップと入所者ケアの向上を目指す場とする。

③職員会議

各研修会の報告や施設内研修を兼ねた会議とし定期的に開催する。

④主任者会議

定期的に各部署での課題を持ち寄り検討する。

⑤臨時会議

早期の対応が必要な場合に、多職種で集まり対応を検討する。

⑥生活支援会議

生活支援計画、ケアプランの作成及び見直しを多職種にて検討する。

⑥自主研修

職員自ら研修課題を見つけ、小グループでの学習会をもち見識を深めていく。

【ケア関係】

①食事について、旬や地域の食材を使った郷土食、また入所者の希望を取り入れた食事作りを考え、入所者の日常的な体調や身体状況を把握し、ADL に合わせた食事ができるような栄養管理に努める。また楽しく、おいしく、落ち着いて食事ができる環境づくりを行う。

②看護職員による日常の健康度のチェック、服薬管理、岡山済生会総合病院嘱託医によ

る週 1 回の往診及び昭和町健康管理センターによる健康診断、レントゲン、血液検査の実施、協力医療機関との連携、必要に応じて近隣医院への往診依頼等、健康管理に留意する。

③入所者と共に室内外の清掃及び整頓、衣類寝具等の清潔保持を通じ、生き生きと生活できる基盤づくりに努める。

④入所者が健康度や心身機能に応じて参加できるクラブ活動、施設外活動、各種行事の他、楽しみややりがいを得られるアクティビティを入所者と共に企画・検討し ADL 向上と QOL の充実を図る。また入所者の社会参加への働きかけや地域活動を共に実践し、やりがいを得られるよう支援する。

⑤入所者個々とかかわりを深め、互いに感謝しあえる関係づくりを行う共に QOL の向上を目指す。また常に入所者の視点で考え他職種で連携してより良いケアを実践する。

⑥入所者が最後まで自分らしく安心して生活できるよう、定期的に多職種で本人や家族の声を聞き取り思いに沿った看取りケアを実践する。(ACP の実践)

#### 【対地域、対家庭】

- 1 岡山市と生活支援短期入所事業の委託契約を締結すると共に、短期入所自主事業にて地域の高齢者を中心に支援が必要な方の受け入れと共に、災害時の福祉避難所としても積極的に受け入れを行う。また地域の高齢者に対し配食、会食サービスを実施し地域福祉の向上に努める。
- 2 各学校の実習依頼については、実習生の学習の場としてだけでなく、職員の学習の場として受け入れを行う。また障害者の就労訓練実習、支援を必要とする子どもの実習、中間的就労支援等の社会ニーズに対しても積極的に受け入れを実施する。職員は、地域に出向き専門的知識を地域の資源として伝えることに努める。
- 3 各行事には地域の高齢者や住民を招待し地域交流を深めると共に、ボランティアの育成を推進していく。また地域行事へも積極的に参加し、地域住民との交流に努める。
- 4 入所者、家族、地域住民やボランティア等誰もが訪問しやすい明るく清潔感のある施設環境を作る。また、SNS やホームページにて施設の取り組み等の情報発信に努め、年 1 回機関紙「ほうせき」等を発行する。

5 年間計画をもとに地域と協働し公益的な取り組みを実施する。また職員全員で積極的  
に取り組める体制づくりと共に地域ニーズに応じて柔軟に実践する。

- ・給食サービス（配食・会食）
- ・ふれあい講座（地域サロン活動）
- ・ほほえみカフェ（認知症・地域交流カフェ）
- ・認知症サポーター養成講座
- ・地域の福祉資源としての食堂及びふれあいホール等の貸し出し
- ・福祉車両の貸し出し
- ・幼稚園、保育園及び小中学生に対する福祉体験や施設見学
- ・高齢者や障害者等に対する実習受入れと雇用機会の確保
- ・つしまみんな食堂（協働）
- ・積善会祭
- ・地域交流会 等

6 分野を問わず企業、各種団体や他法人とも情報交換や交流を図り連携しながら地域ニ  
ーズへ対応する。

## 【月間行事】

### （1） 施設内活動

#### 1、給食相談

入所者と職員が個別に食事について意見交換し、QOL 向上に向けての食事作りとする。

#### 2、常会

毎月入所者と職員が一同に会し、お互いに意見を交換し快適に生活ができるよう話し  
合いや報告を行なう。

#### 3、クラブ活動・文化活動

健康度や心身機能に応じて参加できる活動を考え、QOL 向上及び残存能力の維持向上  
に努める。また、施設運営方針である「地域に開かれた施設」として地域住民の参加  
を呼びかけ入所者や職員との交流、地域の居場所づくりとなるよう活動を行う。

#### 4、誕生会

入所者、職員、家族の他、地域の会食利用者も招待し食事を食べながら誕生者を祝福  
する。



## 5、売店

週 1 回売店を開き、外出ができない入所者も買物を楽しんでもらえる場とする。

## 6、喫茶

ボランティアの協力のもと、入所者の楽しみの場としてまたボランティアや入所者同士の交流を深める場とする。

## 7、おやつ作り

入所者と調理職員との関わりを深められるよう実施する。

## 8、移動図書館

月 1 回、市立中央図書館の移動図書が来会し利用してもらおう。また地域の人にも利用してもらえるよう広報を行う。

## 9、避難訓練

非常災害に備え年 2 回全体での消防避難訓練を実施し、入居者の安全確保に努める。  
また地震、土砂災害に対しても年 1 回の避難訓練を実施する。岡山市と福祉避難所の連携を図ると共に、地域の自主防災会等各団体との連携を密にし、情報交換や共同での防災訓練などを行う。

## (2) 施設外活動

入所者の要望にそった計画を立て、多くの入所者が参加できる活動を実施する。

- ① 花見ドライブ (3 月下旬～4 月上旬)
- ② 蓮見学 (7 月中旬)
- ③ 紅葉見学 (11 月中旬)
- ④ イルミネーション見学 (12 月中旬)
- ⑤ 初詣 (1 月中旬)
- ⑥ 外出支援 (入所者個々の要望に応じて実施)

【施設年間行事】

4月	ひな祭り お花見 花見ドライブ	桃の節句を祝ってお茶会 桜の下での祝宴 市内をドライブ
5月		
6月	大掃除	室内外の大掃除の実施
7月	地域交流会 摩利支天祭り 蓮見学ドライブ	地域住民とボランティアを招いての交流会 摩利支天王様の夏祭り 高松城跡蓮見学
8月	七夕祭り 盂蘭盆 納涼の夕べ	誕生会を兼ねて七夕祭り 盆の法要にて創設者の墓参り 地域住民を交えての盆踊り大会
9月	敬老の日 創立記念日	敬老の日の祝宴 創設者並びに関係者の慰霊祭と祝宴
10月	運動会 秋の健診 ほうせき★まつり	地域の高齢者、保育園児を招待し合同運動会 秋の健康診断の実施 入居者の為の秋祭りイベント
11月	積善会祭	地域住民の交流を目的とした秋祭り
12月	忘年会・クリスマス会 餅つき すす払い	1年間の健康を祝す忘年会とクリスマス会 1年の締めくくりとしての餅つき 室内外の大掃除
1月	新年会 初釜	新年の祝賀会 茶道クラブによる年始めの茶会
2月	節分会	年男・年女が豆をまき、1年の平安を祈る。
3月	彼岸会 健康診断	創設者と報恩積善会供養塔の墓参り 入居者全員の健康診断の実施（昭和町健康管理センター）

## 【社会福祉法人報恩積善会 SDGs への取り組み】

報恩積善会は地域とともに、事業活動を通じて持続可能な社会の実現を目指すべく取り組みを進めています。法人理念の「手を取りあい誰ひとりこぼれることのない大きな輪をつくる大切さ」、SDGs が目指す「誰一人取り残さない」目標に向けて、今年度も一つ一つ取り組みを実践します。

SDGs 目標	
目標 4：質の高い教育をみんなに	実習生の受け入れ等地域福祉教育を促進し、専門的スキルを持つ人材を育て雇います。
目標 8：働きがいも経済成長も	同一賃金同一労働とやりがいをもてる場を実現します。また職業訓練や就業訓練等の受け入れを行い雇用促進と経済成長に寄与します。
目標 11：住み続けられるまちづくりを	誰もが安心して過ごせる地域を目指し、地域をつなぐ取り組みを地域の一員として住民と協働し実践します。
目標 12：つくる責任つかう責任	食品ロスを減少させます。またフードバンクの活動と連携し課題の解決に取り組みます。

